

公募 Q&A

再生医療実現拠点ネットワークプログラム（技術開発個別課題）

2018年6月14日
日本医療研究開発機構
戦略推進部 再生医療研究課
公募担当

技術開発個別課題＜基盤技術（細胞特性）＞

- Q1. 体性幹細胞や体性幹細胞の分化細胞を用いた研究は公募対象になるか。
- A1. 体性幹細胞（間葉系幹細胞を含む）や体性幹細胞の分化細胞を用いた研究は今回の公募対象となりません。本公募では iPS 細胞をはじめとする多能性幹細胞の細胞特性を解明し、臨床用細胞株の品質管理要件を明らかにすることを目的とする研究を対象としています。

技術開発個別課題＜トランスレーショナル・リサーチ、リバーズ・トランスレーショナル・リサーチ＞

- Q2. 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」の下で実施する遺伝子治療やがん免疫治療を目指した研究は公募対象になるか。
- A2. 幹細胞を用いている場合は対象となります。「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」では、iPS 細胞等を使った再生医療について、世界に先駆けて臨床応用することを目的としています。そのため、今回の公募では、原則 iPS 細胞等の幹細胞を用いた臨床研究や医師主導治験を目標とした研究を対象としています。
- Q3. リバーズ・トランスレーショナル・リサーチについて、自身の研究ではなく、他の研究者の臨床研究や医師主導治験の結果について、有効性や安全性に関するメカニズムを解明する研究は公募対象になるか。
- A3. 今回の公募対象となります。ただし、先行した臨床試験で使用した再生医療等製品と同一の被験物を研究に用いる必要があります。また、先行したチームと共同で研究を進めるなど、臨床研究・医師主導治験の臨床データが共有できるとともに、得られた成果がフィードバックできる体制が整えられていることが必要です。